

## お米の量の豆辞典

Q: 自炊で、年何kgのお米がいるの？

A:

- 日本人の1人当たりの米の消費量は、約 60 kg弱／年(1合:150g強／日)といった調査結果が出ている。これは、※約1俵に相当します。)

1合=約150g(以下、約を省略)  
 $150\text{g} \times 1\text{合} \times 3\text{食} \times 356\text{日} = 150\text{g} \times 1068\text{合} = 164.25\text{kg}$   
 $150\text{g} \times (2/3\text{合}) \times 3\text{食} \times 365\text{日} = 106.8\text{kg}$   
 $150\text{g} \times 1\text{合} \times 356\text{日} = 54.75\text{kg}$

Q: 1反(たん)ってどんな面積

A:

- 元々、米1石(150kg)を収穫できる面積を1反としていた。米1石は、大人1人分の年間消費量に相当する。その面積が、約360歩(ぶ)であったことから、1反は360歩に固定されたが、その後の太閤検地によって、1反は300歩に改められた。
- 1石=大人1人の年間消費量  
 =10斗=100升=1000合=180リットル

1斗=10升=100合=100勺  
 =18リットル=15kg

- 1反=米1石の収穫に上げられる田の面積

1反=10畝(うね・せ)=300歩=300坪(600畳)  
 =約10a(9.9174a)=約1000m<sup>2</sup>  
 1歩=左右の歩みで1歩、つまり1間(けん)  
 =約180cm(181.82cm)を1辺とする正方形の面積に相当する。=坪

Q: 反収(たんしゅう)って何？

A:

- 元々、米1石(約150kg)を収穫できる面積を1反としていたが、現在収穫が上がって10a当りの収穫量を反収と呼び比較できるようにしている。

## ① 現代農法

約 600 kg/10a=10~12 俵/反と元々の米1石(約150kg)を収穫できる面積を1反からは反収が4倍になっている。

1 町=米 100 俵 = 3000 坪 = 9917 m<sup>2</sup>  
 1 反=米 10 俵 = 300 坪 = 991.7 m<sup>2</sup>  
 1 畝=米 1 俵 = 30 坪 99.17 m<sup>2</sup>  
 1 坪=米 2kg=約 13.3 合 = 3.3058 m<sup>2</sup>

## ② 有機農法

現代農法の約1/3の収穫になる。 約 200 kg/10a = 3~4 俵/反

1 町=米 33 俵  
 1 反=米 3.3 俵  
 1 畝=米 0.3 俵

## Q: 1俵ってどんな量?

A:

- 農家やお米屋さんでは当たり前のように使われてきた米の量の単位なのですが、今では使うことはなくなってきている。
- 明治時代の末に、1俵を4斗と定義して、1俵が約60kgということになりました。現在では、1俵はちょうど60kgと定義されています。

## [明治時代の末]

1 俵=4 斗=400 合(400 合×150g)  
 =約 60kg(米 1 合=約 150g)

## [現在]

1 俵=60kg

**Q:面積の単位を整理**

**A:**

1 町=10 反=100 畝=3,000 坪 =約 1ha=約 100a=約 10,000m<sup>2</sup>

1 反=10 畝=300 坪 =約 10a=約 1,000m<sup>2</sup>

1 畝=30 坪 =約 1a=約 100m<sup>2</sup>

※ちよどの値であることを明示するには、面積の単位の後に「歩(ぶ)」をつけます。(3 町歩など)

**Q:圃場整備事業とは？**

**A:**

1960 年代に始まる圃場整備事業は、農林水産省や都道府県の公共事業として行われ、農地を 30a(30m×100m) 基準に再区画している。

自治体の農業委員会に農家と認められるのに 3 反必要な場合があるのは、ここからきている。

機械化農業には必要なことだったのですが、美しい棚田の風景が消えてゆき、水田の生態系も崩れていきました。